

# 令和6年度全国学力・学習状況調査 問題別調査結果の概要

秩父市教育委員会 教育研究所

## 小学校

### 【国語】

- 「C読むこと」は県・全国の平均正答率を上回った。
- すべての問題について、県・全国の平均無回答率より低い。
- ▼〈言葉の特徴や使い方に関する事項〉の問題に課題がある。(話し言葉と書き言葉の違い、漢字など)

### 【算数】

- すべての記述式の問題について、県・全国の平均無回答率より低い。
- ▼全体的に課題があるが、特に「A数と計算、B図形」の問題に大きな課題がある。(問題場面を式にする、直径・円周・円周率の関係、球の特徴など)
- ▼〈知識及び技能〉の問題に課題がある。(基礎的な用語の理解、立式、図形の特徴など)

## 中学校

### 【国語】

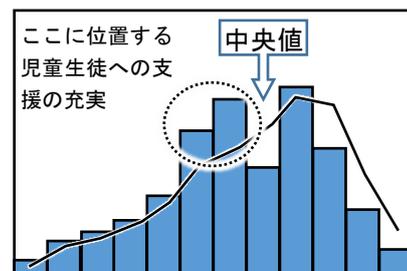
- 〈我が国の言語文化に関する事項〉の問題について、県・全国の平均正答率を上回った。
- ▼〈言葉の特徴や使い方に関する事項〉の問題 (文の成分の順序、漢字、表現の技法)、「A話すこと聞くこと」の問題 (話の内容を捉える、わかりやすく伝える、自分の考えをまとめる) に課題がある。
- ▼無回答率が10%を超える問題が複数ある。

### 【数学】

- 「箱ひげ図」の記述式の問題について、県・全国の平均正答率を上回った。
- ▼全体的に課題があるが、特に「A数と計算、B図形」の問題に大きな課題がある。(nを用いた式、等式変形、事柄が成り立つ理由の説明、数学的な表現を用いての説明)
- ▼県・全国の平均正答率を上回る問題も1問あるが、10%以上下回る問題が6問ある。
- ▼無回答率が10%を超える問題が7問あり、30%を超える問題が3問ある。

## 秩父市の傾向と課題より

- ・小学校6年生、中学校3年生共に、多くの教科で中央値付近に大きな谷があり、中央値より2～3問程度低い児童生徒の割合が高くなっている傾向がある。このことから、中央値より2～3問程度高い児童生徒と中央値から2～3問程度低い児童生徒の差が大きい問題を分析し、授業改善することで、効果的に秩父市の児童生徒の学力向上を図ることができると考える。



※次ページより、中央上位層と中央下位層の比較をしました。